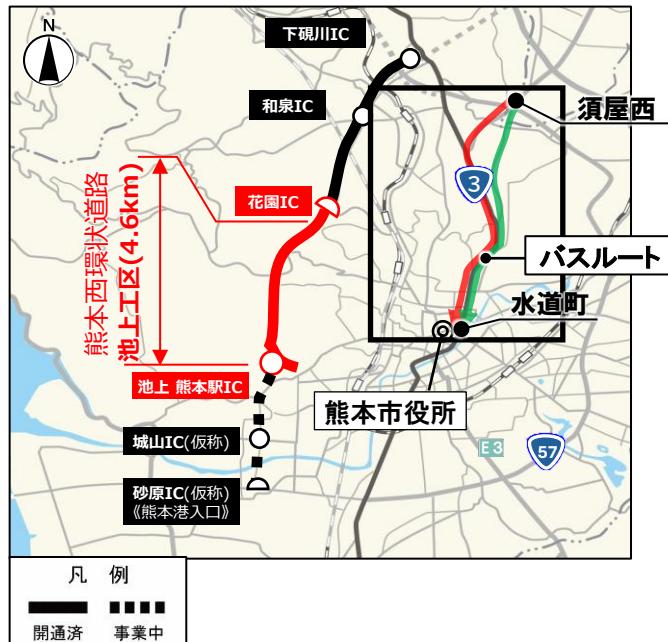


■開通後の効果

【効果1】公共交通の所要時間の短縮

○池上工区の開通により交通渋滞が緩和され、国道3号を利用するバス路線では、朝ピーク時の所要時間が最大9分短縮されました。

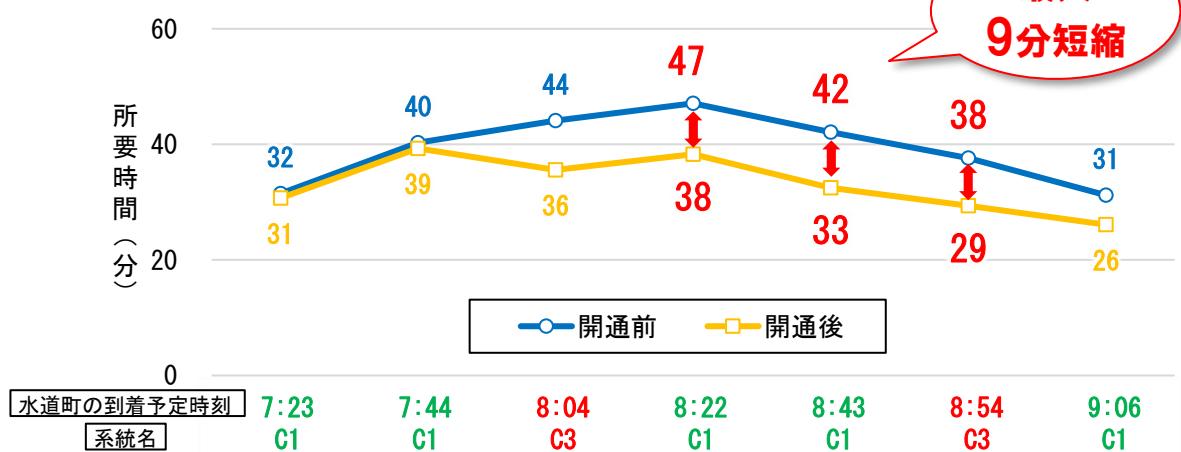
■国道3号利用の路線バスルート



出典：地理院地図



■路線バス(須屋西バス停～水道町バス停間)の所要時間



算出条件：バスロケーションデータ

開通前：R7.10.1～18の平日（R7.10.1にダイヤ改正が行われているため、開通日前までの期間で設定）
開通後：R7.11.19～12.18の平日（1か月間）

※図中のルートを運行する路線（熊本電鉄「C1系統」、「C3系統」）において、須屋西バス停から水道町バス停を対象とし、各バス停の遅れ時間の中央値を採用して所要時間を算出

■バス利用者の声

開通前は今より10分以上早いバスに乗って市中心部に向かっていましたが、開通後はバスの遅れが少なくなり、朝の時間にゆとりを持ってバス通勤できるようになりました。



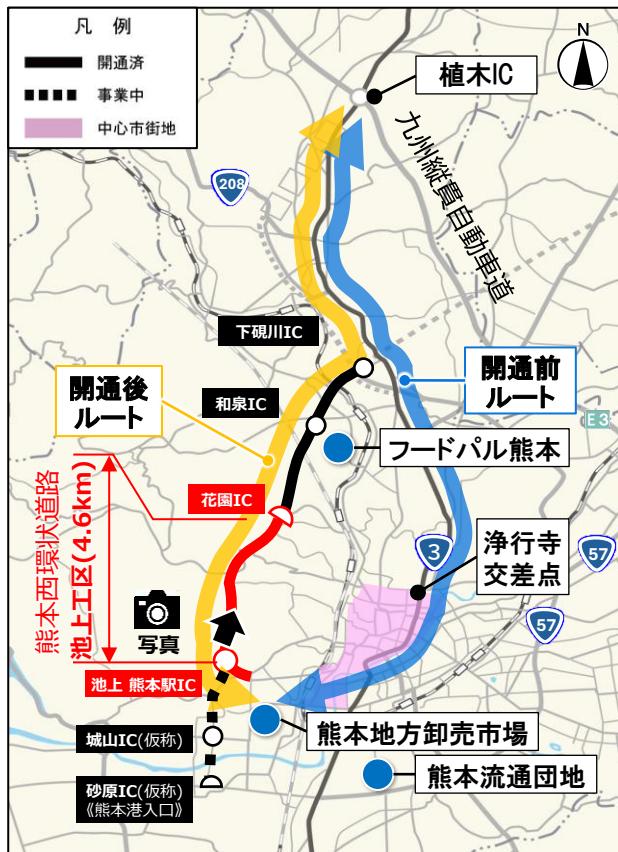
出典：ヒアリング結果（令和8年1月）

■開通後の効果

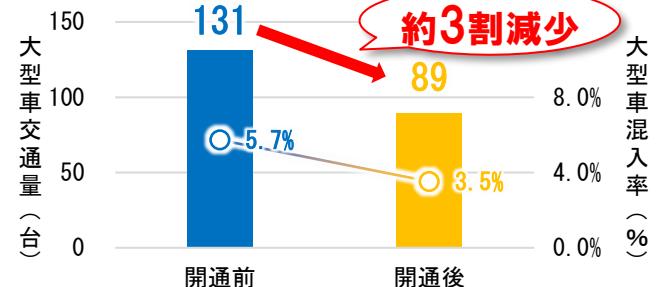
【効果2】産業活動の支援

- 池上工区の開通により、市中心部の交通混雑が緩和し、特に国道3号では大型車交通量が減少しました。
- 運送時間の短縮や、到着時刻が予想しやすくなることで、物流の効率化が図られました。

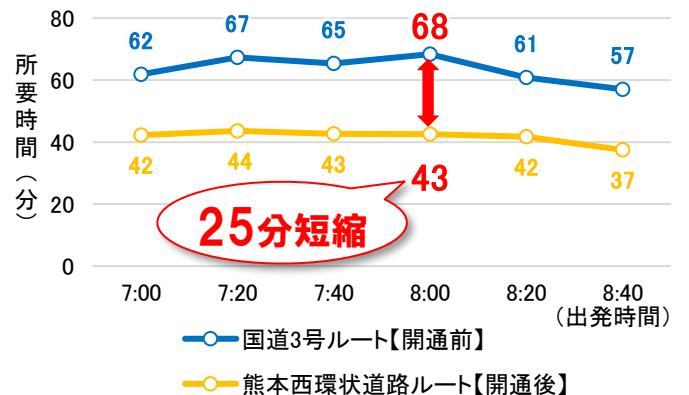
■卸売市場と植木IC間の走行ルート



■国道3号(浄行寺交差点)の大型車交通量



■卸売市場と植木IC間の所要時間



■運送事業者(池上 熊本駅IC周辺の事業者)の声

開通前は、国道3号が朝夕の時間帯で慢性的に混雑しており、集配時間が読めませんでしたが、開通後は、熊本西環状道路を利用することにより1台あたり10分～20分程度の短縮を実感しています。



出典：ヒアリング結果（令和8年1月）

■卸売市場関係者の声

池上工区の開通により、市街地を経由せずに広域移動が可能となり、渋滞の影響が軽減されました。輸送時間の短縮および到着時間の見通しが立てやすくなり、物流の定時性が向上し、業務効率の改善につながっています。

出典：ヒアリング結果（令和7年12月）

■開通区間を利用している貨物車



※平日朝9時台（令和7年10月23日（木））

■開通後の効果

【効果3】救急医療活動の支援

○池上工区の開通により、三次救急医療施設までの30分圏域が拡大しました。

○三次救急医療施設に熊本市北部地域から約30分で移動できるようになりました。

■三次救急医療施設までの30分圏域



算出条件：【時間】実走調査結果（7-8時台における6回走行の平均）

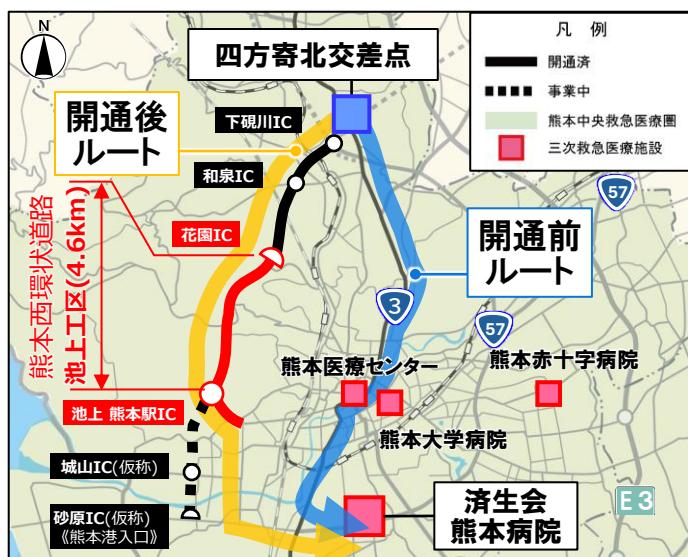
未調査区間は令和3年道路交通センサスの混雑時旅行速度

【人口】令和2年国勢調査

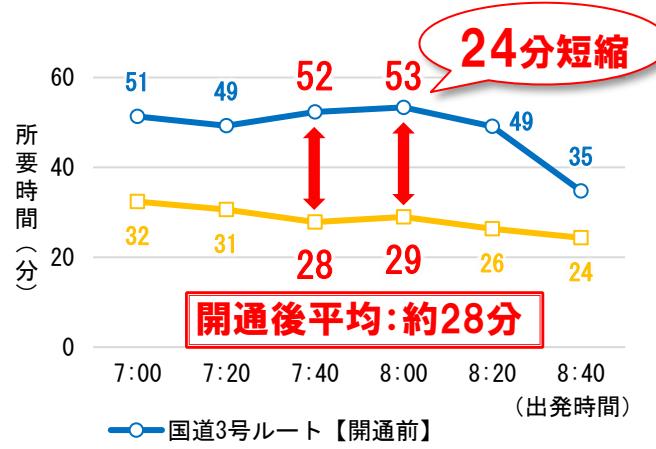
開通前：令和7年10月1日（水）開通後：令和7年11月26日（水）

出典：地理院地図

■済生会熊本病院までの搬送ルート



■済生会熊本病院までの所要時間



算出条件：実走調査結果
開通前：令和7年10月1日（水）
開通後：令和7年11月26日（水）

■救急活動従事者の声

北消防署管内から済生会熊本病院への救急搬送時では、熊本西環状道路を積極的に利用することで、所要時間が短縮し、安全性が向上したことに加え、揺れが少なく患者負担が軽減されました。



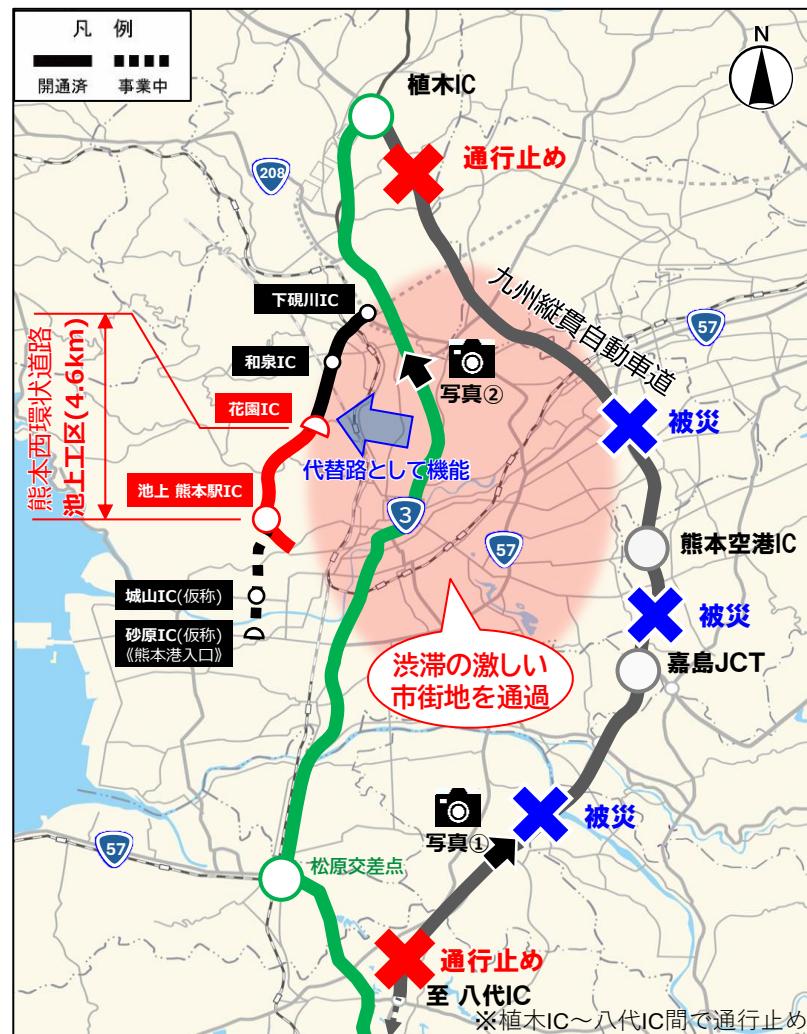
出典：ヒアリング結果（令和8年1月）

■開通後の効果

【効果4】災害時のダブルネットワーク

- 熊本地震時、九州縦貫自動車道の植木IC～八代IC間が通行止めとなり、並行する国道3号等に交通が集中して速度低下が生じ、各所でも交通規制が敷かれたことで、避難・救援活動、物流に影響を及ぼしました。
- 池上工区の開通により、災害時の物資の輸送や救助活動に寄与するダブルネットワーク機能が構築されました。

■平成28年熊本地震後の九州縦貫自動車道通行止め状況



■写真① 熊本地震による橋梁の崩落 (九州縦貫自動車道 府領第一橋)



出典：国土交通省HP「道路における震災対策」

■写真② 自衛隊災害派遣移動中の渋滞状況(国道3号山室交差点付近)



出典：平成二十八年熊本地震「震災の記録」再起へ
(平成29年3月 熊本市)

■熊本地震発生の旅行速度の変化(国道3号 植木IC～松原交差点)



出典：平成28年度 国土交通省九州地方整備局 九州国土交通研究会